

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200096	
法人名	芙蓉建設株式会社	
事業所名	グループホーム桜森荘	
所在地	山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号	
自己評価作成日	令和3年1月9日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月17日 水曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉に貢献します。高齢者が自らの意思に基づき、自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることができるように支援したい。
また、医師と常勤の看護師と介護員のチームワークで、最期まで安心して生活できる場所として利用者・家族にとらえてもらい、看取りをした方のご遺族ともいまだに、つながりを持っている。
職員の研修にも力を入れている。

事業所は、富士の裾野に広がる緑豊かな環境で、季節の移り変わりを自然に感じられる恵まれた環境にある。「私たちの合言葉」「おおもりそう」の文字を活かした理念を職員間で共有し、利用者が自らの意思に基づき、自らの能力を活かした質の高い生活が送れ、馴染みの関係継続の出来るような支援を目指し、全職員の協力体制が整っている。また、ホームページを立ち上げ何時でもアクセスできるようにしたことで家族にとっても喜ばれている。入居者は各ユニットからスロープを利用して自由に庭に出ることが出来たり、ユニット間を自由に行き来することも出来る。入居者が安全・安心して日常生活が送れるように、このたびの地震から行動計画の検討や再度、コミュニティカフェの有効活用の検討も行う予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに(コロナ禍以前) 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが(コロナ禍以前) 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、新しく設定した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。また、理念と運営方針に関する月間目標に定め、周知徹底の為、1か月間毎日朝礼でも確認。	理念、新しく設定した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。また、理念と運営方針に関する月間目標に定め、周知徹底の為、1か月間毎日朝礼でも確認。	設立当初からの理念と新しい運営方針を玄関・各ユニット・全職員に配布し、朝礼・会議の折に読み上げ周知徹底している。また、毎月、行動目標を2つ掲げ、実践を通して目標達成に努め、利用者・家族の思いを大切に、満足した暮らしの継続を目指し、全職員でサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止、清掃のみ参加。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(肉、魚等)で購入。	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止、清掃のみ参加。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(肉、魚等)で購入。地域の小学生からの手紙を頂き、返事を書いて渡した。	自治会に加入、回覧板が回ってくる。年間行事の把握はしているが、コロナ禍で今までの様に行事への参加は行わず、清掃活動のみ参加している。敬老会には市役所の職員が来訪し地域の小学生からの手紙を読み上げてくれた。入居者が大喜びしお礼の手紙を書き職員が届けた。バンド演奏も来訪してくれ楽しんだ。天気の良い日は入居者の状況に合わせ小人数で小山に散歩に行き近隣の方との挨拶も交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。認知症の相談は変わらず受け付けており相談、支援の方法等助言を行い、行政サービスにつながったケースもある。	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。来訪者には当該施設がどのような仕組みでなされているか、認知症の理解、相談、支援の方法等助言。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。5月はコロナの影響により中止。11月も開催が困難と判断し市の包括のアドバイスの下、書面で照会。	入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。5月はコロナの影響により中止。12月も開催が困難と判断し市の包括のアドバイスの下、書面で照会。	運営推進会議を昨年の7月・10月に開催後、中止となっていて書面での紹介と成っていた。そんな折、家族から入居者の様子が分かるとういとの意見があり、内部ページを作成し、利用者の日頃の様子やイベント参加等の写真を撮り付け、いつでもアクセスし見ていただける様にした。家族に大変喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	市には事業所の状況報告や書類を持参する等出来るだけ額を出すようにしている。事故報告者・管理者退所等福祉部長に相談しアドバイスをもらう等協力関係が築けている。地域包括ともBPSDの強い離接行動の激しい方の対応で、連絡を密に取りアドバイスを受けサービスの提供に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されており、玄関施設等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されており、玄関施設等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束の研修は「メディアパス介護アカデミー」と言うメディア研修を行なっている。研修後は毎回レポートを提出してもらいアドバイスをする等考えるケアを勧めている。管理者は時々行動抑制に関する注意をすることもあるが、職員同志注意し合う場面も目にしていて、職員の意識改善が出来つつある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注視予防に努めている。	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注視予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての受講の機会はない。メディアを使用し自由に研修できるよう導入。その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。1名、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応。	残念ながら日常生活支援事業や成年後見制度については、そのことのみを中心とした研修、講師等機会を持ったことはない。メディアを使用し自由に研修できるよう導入。その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映。また昨年の外部評価結果を取り入れ、毎月の利用の様子について手紙を書くようにした(ふじざくらユニットについては以前から行っている)。	玄関を入った所に設置していた意見箱・気づき箱を1本化した。コロナ禍で面会も困難に成って来ている事から、毎月、請求書送付時手紙を同封する・電話を入れる等し意見や要望を聞く様に努めている。今回請求書と預り金の送付先を変えてほしい旨の依頼有り、すぐに対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。	月1回の職員全体会議で意見や要望・アイデア等自由に言える環境がある。職員は利用者へ声掛け頻度の検討を行なうことを提案、それを入居者の一人ひとりに応じて行い、オムツ交換・水分チェック・排泄チェック表に活かされている。また消毒・手洗いの徹底を把握するためチェック表の提案があり、実行出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年はコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年はコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不眠状態ではあるがさほど困ってはいない方がおり、その原因を24時間シート・夜勤者からの聞き取りなどから検討し、本人の安心を確保するための関係づくりを実施。	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のころより身体的な不調があり、精査の上、看取りの状況の方がいる。往診の都度医師からの説明をして頂いたり、様々な不安・家族関係の相談・死後の対応方法等要望に対応。	帰宅願望があり、落ち着きがなくなったり、盗難妄想も激しくご家族も自宅でも目が離せない状態で、ごちらにもいろいろそのことで迷惑をかけることもあると。興奮しない環境づくり家族とも連携して(電話を自由にして安心して頂く等)関係づくりを実施。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入院・パーキンソン発病による状態の変化に伴い、退院時に福祉用具の提供、リハビリができるよう計画を見直しサービスの対応を実施。	便秘について非常に困っている全介助状態の利用者に対し、ご本人の潜在能力を考慮し、離床と食事摂取の自立支援に心掛けサービス提供。結果、食事が自力摂取でき、食事量が増え、内服が減り、便秘が改善した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共にしてくれる方もいれば、また別の方はカーテンの開閉を役割として行っていたりしている。	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共にしてくれる方もいれば、食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。また自主的に裁縫や草取りなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ADLの低下・栄養状態の悪化している方に、午前 のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただ き、食事・栄養摂取への契機となるよう働きかけを 行い、数か月かかったがしっかりと食べられるよう になった。家族も喜んでいて、看取りの方に対し ては、可能な限りご本人と家族の時間を大切に過 して頂いている。	ユニット名(ふよう) コロナウイルスの影響により面会、外食等制限を 行っているのが現状。但し、食欲低下の方・看取り 状態の方については、感染対策の上で配慮しなが ら面会を解除。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきとの手紙のやり取り、ドライブの際に 家の田んぼを見に行ったり、46年ぶりに再会した 息子さんと面会したり、可能な限り支援している。	面会制限の為、馴染みの人や子供たちからの手紙 のやり取りはしている。	入居前の馴染みの人や場所の把握に努めている。特に BPSDの入居者の対応を取り上げ、情報の共有・行動 の把握を行なうことを意識した関わりが持てるように成っ ている。面会制限で自宅に外泊や家族旅行・外食等に 行けていないが、家族・知人との手紙のやり取りで馴染 みの関係継続に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	比較的優しく穏やかな方が多く、トイレ誘導までしよ うとするため、都度職員が気にしながら、対応して いる。支えあう気持ちは大切にしたい。	食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。看 取りの状況であっても、他者が訪室して声をかけて くれ気遣いが感じられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった方のご家族が数か月たって来所 し、家の片づけで出た使えそうなものを持って来て いただいた。努めていたわけではないが、他の利 用者にも面会したいとの事で、関係性が出来てい たことに返って驚いたこともある。	施設移転した方については、施設側と関係を持ち、 必要に応じて助言等行っている。永眠され契約終 了となったご家族とは疎遠。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向 がよく聞ける状態であるため把握している。医師か らの勧めと本人の要望が異なることもあり、その際 には何度か話をし、すり合わせをしている。	日常的に会話をする機会が多く、本人の要望、意 向がよく聞ける状態であるため把握している。困難 な方の場合、表情などで本人本位に検討。	入居前の自分史の把握・意識的にコミュニケーションを 行なう等入居者の思いの把握に努めている。話が弾む。 中には家に帰っても一人だからここで楽しく暮らしたいと 言う入居者もいる。また、看取り人でも好きなこと・好きな 物があるはずで、職員にそこを把握するためにレポート を提出してもらい、本人本位の支援に活かせるように努め ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人また は家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、 話の中で聞き取った内容を、職員間で共有してい ることもある。	生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で応え られる方に関しては本人より、応えられない方 には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	体調の変化の激しい方にも、出来る限りタイムリー に対応できる様、状態把握している。状況に応じて はオンコール対応している。	1人1人の毎日の過ごし方、近々の心身状態、有す る力等状態の経過を見ながら、本人と話しながらそ の日の暮らし方を決定。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について 本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含 める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計 画づくりを実践。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について 本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含 める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計 画づくりを実践。	入居前、本人・家族と面会し要望や困りごとを聞いてい る。前ケアマネジャーからも情報の提供をいただき、暫定 プランを作成し、1か月様子を見る。職員全体でモニタ リングを行ない、本プランを作成し家族に了解を得、3か 月ごとに見直している。入院・体調に変化のある入居者は 随時プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録 (申し送り、業務日誌、システム情報)に記入し、職 員間で情報を共有しながら実践、計画の見直しに 実施。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録 (申し送り、業務日誌、システム情報)に記入し、職 員間で情報を共有しながら実践、計画の見直しに 実施。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム 桜森荘	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援として、包括・社協との連携の下、お金の管理の状況を報告。最期を迎えた時の対応について、ご本人の要望を聞きながら、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応した。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	依存症回復施設が協力して頂いたことがある。また看取りで、生前、最期を迎えた際の仏壇をどうしたらいいか心配して方に、住職の好意により引き取り・お焚き上げを依頼したことなど、出来る限り楽しんできた。	地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち会いや話し合いの場を持つようになっている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち会いや話し合いの場を持つようになっている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	かかりつけ医受診者は3名、家族へは状況により口頭で説明したり、書面を手渡し受診に付き添ってもらっている。その他の入居者は訪問医の受診。受診の状況は記録し職員全体で把握するよう指示している。歯科受診は希望に沿って往診あり。その他の専門医の受診は家族対応と成っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤でいるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	看護師が常勤でいるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期の説明を入居時に行っている。往診医の判断で家族と話し合いが行われ、看護師・職員との情報共有が図られている。栄養補助食品の検討や看取りと判断された入居者でも皆の顔が見る場所での食事の提供をすることもある。職員は外部研修に行き研修内容の共有を図っている。医療との連携は取れており、職員と共に本人・家族を支える体制が整っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。採用時初回研修に研修を行う程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。採用時初回研修に研修を行う程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。月1回施設内での避難訓練を実施出来ている。	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなど把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。月2回施設内での避難訓練を実施出来ている。	地域の消防団に施設の全体像を把握してもらっている。富士山の噴火時の訓練・火災・災害時に備え前回の期待したい内容(避難誘導訓練)を昨年の6月から毎月レクリエーションに合わせ実施している。地域住民との協力体制が出来ている。避難場所には近くの小学校・公民館がある。自治会でも場所の開放を行なってくれることになっている。食料品や備品の段ボールベッドも準備してある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしつこく行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意することもある。	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修をしつこく行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意することもある。	自分がされて嫌と思うような声掛けは避けるようプライバシーの確保や本人の気持ちを尊重した声掛けを徹底し、改善に向け頑張っている。トイレや入浴の誘導時の声掛け・〇〇ちゃんづけ等は特に注意するように徹底し、職員には考えてもらう研修にしている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム 桜森荘	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買っていくていただいたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。	自己決定を引き出せるような言葉、会話を用いて、思いや要望を表現できるようにしたり、自己決定できる環境を整えながら働きかけを実施。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当は毎日入浴したい方がいるが、職員対応が出来ずにいる。それ以外はほぼご本人の希望に応じてその方のペースで生活されている。	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たラジオを聴いたり起きてもらっている)。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪、無精ひげ等身だしなみを大切に。鏡を常に見たい方には、手鏡をそばに置き、その方なりのおしゃれができるように支援している。	頭髪、無精ひげ等身だしなみを常時注視。化粧する方にはお洒落ができるように支援している(化粧品補充、爪の手入れ等)。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	献立・食材は契約業者から届き、湯煎し盛り付ける。週1回、日曜日の昼は、食事担当者が入居者の要望などを聞きながら献立を立て、冷蔵庫を確認し足りない食材は職員が購入している。サイゼリアから出前を取ったりホットケーキ・たこ焼き等を作って外出できない分、事業所内で楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリスエットを起きたら提供。状態に応じ、プロテインを飲んでいただいている人もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。	食事量、カロリー、水分量を記録。1日を通しての摂取量に応じた支援。夏場はポカリスエットを起きたら提供。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中2人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。	1人1人の排泄時間、習慣を把握してトイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。	自立3名、リハビリパンツのみ4名、オムツ対応2名、残りの入居者がリハビリパンツにパット使用と成っている。排泄チェック表を確認し、時間で誘導・声掛けを行ない、転倒の危険のある入居者は移動動作の見守りを行う等、個別対応し自立に向けた支援を心掛けている。失敗時はさりげなく声掛けし自尊心を傷つけないような対応を行なっている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食物繊維の摂取の声掛け、軽い運動・整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。	水分・食物繊維の摂取の声掛け、軽い運動・整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。また、離床と食事の自力摂取により副食の摂取量が多くなり、結果として便秘が改善、内服の量も減った方もいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	週2回、順番に入浴を行なっている。利用者のその日の体調や希望に合わせた支援を心掛けている。羞恥心の強い入居者は曜日を固定し同性介護で対抗・セクハラの男性も同性介護で対応している。入浴を拒否する方ではなく皆が楽しみにしていることから、安心・安全な入浴ができる環境を心掛けている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム 桜森荘	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等々々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることも。また夜間のどの湯き等水分を提供。	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等々々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。また夜間のどの湯き等水分を提供。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。嚥下の状態に応じ服薬の支援をし、症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。	薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。嚥下の状態に応じ服薬の支援をし、症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により外出事は行えませんが、近くへの散歩・ドライブや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。	コロナウイルスの影響により外出事は行えませんが、近くへの散歩・ドライブや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。	入居者の希望に沿った外出はできていないが、2~3人での散歩は日常的に行い近隣の方とあいさつを交わしたり、床屋さんの子供たちと会話を楽しんだりしている。看取りの方でもカレンダーに記録し、日光浴をしてもらっている。ペランダで富士山を眺めながら日光浴を楽しむ入居者もいる。入居者の状況に合わせてドライブに行く等、五感への働き掛けも行なっている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で銀行員が訪問し管理して頂いている方もいる。	全入居者ではないが、一部入居者には、バック現金を家族と相談して自己責任で管理。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。携帯電話を持っている方もいる。手紙もやり取りする方も2名いる(返信、年賀状、暑中見舞い等)。	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。手紙も代筆(返信、年賀状、暑中見舞い等)。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。1名は、スロープに出て運動をする姿も見られる。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	各ユニットには大型の加湿器が設置されている。玄関から入ったフロアには緑の鉢植え・マッサージ器・家具調炬燵などが置かれ、天窓から自然な光が差し込む明るく居心地のよい場と成っている。各ユニットから庭に続くスロープがあり、入居者が自由に行き来している。玄関横のコミュニティカフェにはしやれたデザインのテーブル・椅子が置いてあり、入居者の会話を楽しむ姿も見られている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティカフェの活用。気の合う入居者同士の居室に伺い世間話。	コミュニティカフェの活用。気の合う入居者同士の居室に伺い世間話。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、筆筒・鏡台などの家具、アルバム等)。	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。テレビ・ラジオ・こたつの持ち込みを実施。	各居室にはベッド・エアコン・24時間換気システム・備え付けの整理棚・防火カーテン・足元センサーライトが備え付けてある。大きな整理棚には衣服や生活用品が整理されている。室内には家族の写真・仏壇・テレビ等馴染み物が持ち込まれ、入居者それぞれが居心地よく過ごせる居室と成っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように設計	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように設計。	